

書写の部

研究副主題

～楽しみ つながり 自信を育む書写学習～

阿南市立宝田小学校

I 研究の概要

1 研究主題

言葉を大切にし、自律的に学ぶ子供の育成

－楽しみ つながり 自信を育む書写学習－

2 主題設定の理由

(1) 本校の実態

本校は、阿南市のほぼ中央部に位置し、桑野川と岡川に囲まれた豊かな穀倉地帯にある。全校児童は149名で、教育目標に「互いの人権を大切にし、自ら学び、心身ともにたくましい児童の育成」を掲げ、人権教育の推進を学校教育の中核として教育活動を進めている。宝田町には、町民運動会や「わいわいバザー」、阿南市人権教育宝田支部大会、宝田花火大会などの様々な地域行事があり、学校と家庭、地域が密接に連携している。また、地域の資源を活用し、田植えや稲刈り体験、コスモスの種まきなども行い、人とのつながりを味わうことができている。日々の教育活動の中でも、登校班やなかよし班活動などの異学年でふれあう機会や、互いのよさを認め合う活動を意図的・継続的に計画し、実践を積み重ねてきている。人権集会をはじめ様々な全校集会に協力的に参加したり、休み時間に学年の枠を越えて一緒に遊んだりすることで、児童は「自分の思いや考えを伝え合うことの大切さ」や「人とつながることの喜び」を体感している。

(2) 児童の実態

本校は、素直で明るく、何事にも真面目に取り組む児童が多い。昨年度の書写に関するアンケート（詳細は補助資料）においても、「文字を書くときに丁寧に書くように気を付けている」「もっと上手になりたい」など、前向きで意欲的な回答が多く見られた。また、「友達や先生に褒めてもらいたい」「丁寧に書くと自分も相手も嬉しくなる」などと記述する児童も多くいた。その反面、「書くことが嫌い」という児童や、「自分の書く文字は好きではない」と答えるなど自己肯定感が高まっていない児童、「書写で学んだことは生活の中で役立っていない」と感じている児童がいた。この結果から、さらに伸ばしたい力や課題がより明確になってきた。

(3) 研究主題・副主題の設定にあたって

令和7年度徳島県小学校書写教育研究大会を開催するにあたり、これまでの徳島県小学校書写部会の研究の蓄積を受け、研究主題「言葉を大切にし、自律的に学ぶ子供の育成」に加え、「楽しみ つながり 自信を育む書写学習」を本校の副主題に設定した。なお、書写においては、「言葉」を「文字」と捉え、研究を進める。

文字は日常生活に不可欠で、各教科の学習活動の基盤となり、言語活動の充実のために存在するものである。心を込めて丁寧に書いた「手書き文字」には、体温が感じられる。手書きすることは、単に情報を伝達するだけでなく、相手を意識したコミュニケーションの場であり、自己表現の場である。そこで、書写の時間にとどまることなく、学習活動全般や日常生活に生かされる書写学習をめざすこととした。「文字を大切にすること」は、書写学習を通して、文字感覚を高め合い、確かな書写力を身に付けることであり、相手意識や目的意識をもって自己表現することである。また、「自律的に学ぶ」とは、児童が自ら課題をもち（主体的に）、考えを出し合ったりよりよい見方や考え方を認め合ったりしながら（対話的に）課題を解決すると

もに、自らの学びを振り返り、次時の学習につなげて学び続ける態度（深い学び）のことである。

研究を進めるにあたり、研究主題について教員間で共通理解を図った。次いで児童の実態把握や書写に関するアンケートを行った。そこから見えてきた課題を解決するため、以下の支援や手立てが必要と考える。

- ①文字を書くことや書写の時間に対して意欲的に取り組むための支援
- ②自己肯定感を高めるための活動内容の工夫
- ③自分の思いや考えを伝え合う場の設定
- ④筆圧や字形を整えて書くことを定着させるための手立て
- ⑤正しい姿勢や正しい筆記具の持ち方を定着させるための工夫

これらを踏まえ、副主題「楽しみ つながり 自信を育む書写学習」の充実を図るため、次のような仮説を立てた。

「書く楽しみ」をよりいっそう感じるには、児童自身の実感を伴った技能の向上が必要であると考え。そこで、正しい姿勢や正しい筆記具の持ち方などの基礎・基本の定着に立ち返るとともに、筆圧や字形を整えて書くことを定着させるための運動や活動を取り入れる。その際には、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の観点から学習活動の充実を図ることに留意する。また、「学びの質」の向上をめざす授業の在り方について研究を進める。学習過程「つかむ」「高める」「確かめる」「生かす」を徹底し、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。その中で、対話を通じて児童自らの考えを広げ、深められるような場の設定を行う。ここでは、自己を高めるため、児童に、「どのようにして、また、どのような『自分のめあて』をつかませるか」「どのように練習の場を選ばせるか」「どのように振り返らせるか」が研究の中核となる。さらに、いろいろな場面でいろいろな道具を用いて書く経験や、各教科や学校行事の中で目的意識や相手意識をもって書く活動を意図的・計画的に取り入れ、継続することで、日常化を図っていく。これにより、児童は生き生きと書いたり伝え合うことを楽しんだりすることができるとともに、学びが生活に生かされていると感じられるようになると考える。

「自信」は、めあてを達成した時や、自らの成長に気付いた時に感じられるものである。つまり、書写では、自分の書いた文字で相手に思いや考えがよりよく伝わったり、認め合ったりすることで自信が育まれると考える。そして、その自信がさらなる「文字を大切にする」ことの根幹となり、日常生活に生かそうとする意欲につながり、他者とよりよい関係を築くことができるのではないだろうか。これは、本校が大切にしてきた人権教育の考え方へとつながるものであるとともに、全ての教育活動で育むべき生きる力であると考えた。

このような仮説から、これまで本校で実践してきた人権教育の手法を生かしながら研究を進めたいと考え、次の二つを研究内容として設定した。

研究内容Ⅰ

主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善及び指導・支援の在り方について

研究内容Ⅱ

『書くこと』を楽しみ、他者とよりよくつながることで、自信を育むことのできる指導や支援の手立てについて

3 具体的な研究の内容

【研究内容 I】

主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善及び指導・支援の在り方について

(1) つかむ（課題把握）

- ・興味や関心をもつことができる教材や、提示方法の工夫
- ・主体的にめあてをつかむための手立て
- ・学習の見通しをもち、主体的に学ぶ学習の流れについて

(2) 高める（課題追及）

- ・児童の課題や実態に応じた支援
- ・学習課題やめあてに応じた効果的な教材教具やICT機器の活用
- ・自分の考えを広げ深めることができるような学習形態の工夫

(3) 確かめる（評価）

- ・課題に沿った効果的な振り返り（自己評価・相互評価）の方法について
- ・成果だけでなく学習過程を大切にし、学習の意欲をさらに高めるための手立て

(4) 生かす（発展）

- ・本時の学びを次時の活動につなげるための意欲付けや手立て
- ・学習したことが、関連した他の文字や生活の場で生かせるようにする

【研究内容 II】

『書くこと』を楽しみ、他者とよりよくつながることで、自信を育むことのできる指導や支援の手立てについて

(1) 児童の書く意欲を高める文字環境の整備

① 校内掲示環境の整備

- ・書写ギャラリーの設置
- ・校内掲示を通した異学年交流
- ・ありがとうカードや委員会によるポスター作成

② 書くことに対する基本的な知識や技能の育成

- ・書写コーナーの設置
- ・書写タイムの実施

(2) 学びの日常化

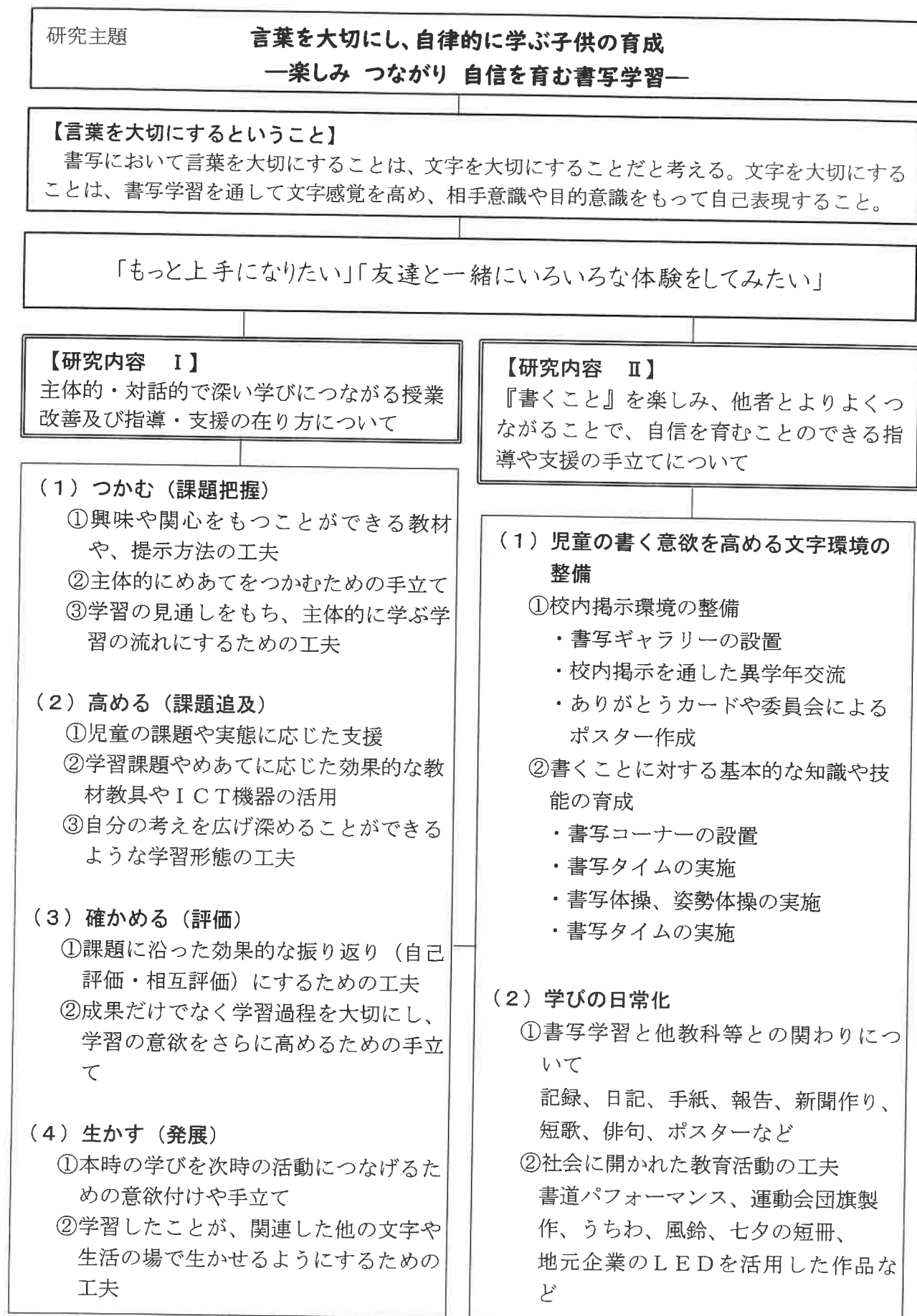
① 書写学習と他教科等との関わりについて

記録、日記、手紙、報告、新聞作り、短歌、俳句、ポスター、学級目標、
図工の共同作品 など

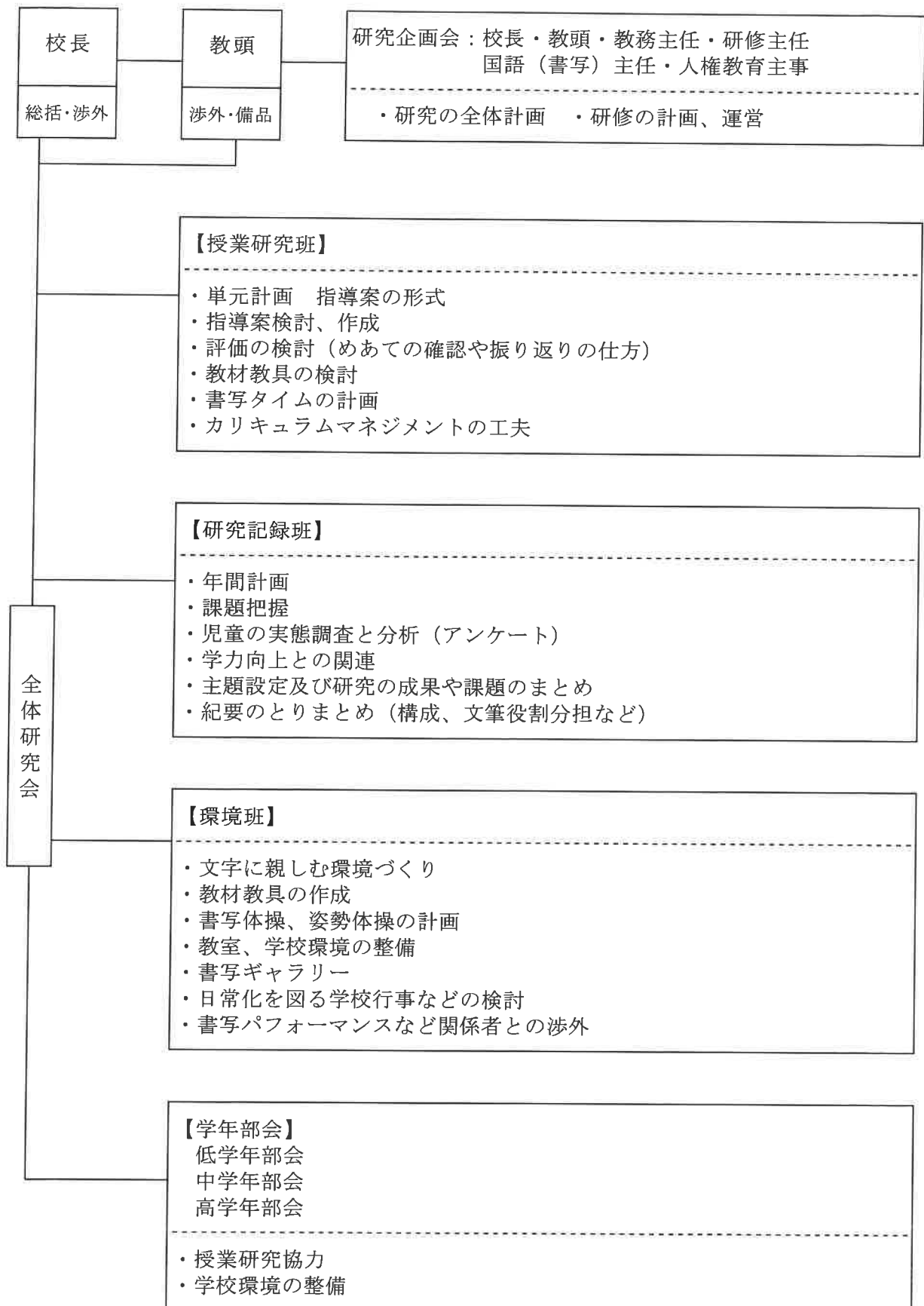
② 社会に開かれた教育活動の工夫

書道パフォーマンス、運動会団旗製作、うちわ、風鈴、七夕の短冊
地元企業のLEDを活用した作品 など

4 研究の構想図



5 研究組織



6 研修の経過

【令和6年度】		
4月	○校内研修	書写教育について 研究主題について 研究組織について 研修計画について
5月	○校内研修	研究の方向性 副主題について 班別研修（研修及び活動の方向性について検討） 研究主題 副主題について
6月	○校内研修 個人研修 ○徳島県書写部会 勉強会	書写に関するアンケート 授業実践
7月	○校内研修 ◎授業研究	第6学年指導案検討会 第6学年「文字の組み立て方（三つの部分）」 阿南市書写部会
8月	○校内研修	書写に関するアンケート 分析と考察 今後の研修の進め方について 年間計画について 班別研修（活動の振り返りと今後の研修について） 学校環境の整備について
9月	○校内研修 ◎授業研究	第2学年指導案検討会 第2学年「かん字の学しゅう」
10月	○校内研修 ◎授業研究	第5学年指導案検討会 第5学年「文字の大きさ（漢字と平仮名）」
11月	○校内研修 ◎授業研究	第4学年指導案検討会 第4学年「文字の組み立て方（上下）」
12月	○校内研修 ◎授業研究	第1学年指導案検討会 第1学年「かん字の学しゅう」 阿南市書写部会
1月	○書写研究 ○徳島県書写部会 勉強会	第2回アンケートについて
2月	○校内研修	書写に関するアンケート 分析と考察 年間計画の見直しについて

【令和7年度】		本年度の研究のまとめ 研究紀要について
		○校内研修 班別研修
	3月	○校内研修 次年度研修計画
	4月	○校内研修 組織計画 書写研究
	5月	◎授業研究 フラワー学級 自立活動「書字の力を伸ばすいろいろな運動」 ○徳島県書写部会 勉強会
	6月	○書写研究 第3回アンケートについて ○校内研修 第5学年指導案検討会 ◎授業研究 第5年学年「筆順と字形」 阿南市小教研授業研究会 書写部会 ○徳島県書写部会 勉強会
	7月	○校内研修 第4学年指導案検討会 ◎授業研究 第4年学年「ひらがなの筆づかい」 ○校内研修 第1学年指導案検討会 ◎授業研究 第1学年「ひらがなの学習」 ○校内研修 第3学年指導案検討会 ◎授業研究 第3学年「はらいの筆使い」
	8月	○書写に関するアンケート分析と考察 ○書写研究 指導案検討会 研究紀要について 基調提案 環境整備など ○個人研修 (指導案作成 教材教具作り 授業準備) ○班別研修 教材教具作成 紀要作成 環境整備
	9月	○校内研修 書写研究 ○校内研修 第6学年指導案検討会 ◎授業研究 第6学年「文字の大きさと配列、点画のつながり」 ○班別研修 教材教具作成 紀要作成 環境整備
	10月	○校内研修 第2学年指導案検討会 ◎授業研究 第2学年「画のつき方と交わり方」 ○校内環境整備 指導案検討 ○班別研修 教材教具作成 紀要作成 環境整備

第1学年 国語科（書写）学習指導案

第1学年 24名

指導者 湯浅 美佐子
露口 恵理子

1 単元 ひらがなの 学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、前向きに様々な学習に取り組んでいる。5月下旬に、2年生から学校探検の招待状をもらった。児童は、自分のために書いてくれた文字を嬉しそうに見ていた。探検後に、お礼の手紙を書いた際には、相手を意識し、普段よりも丁寧に書こうとする姿が見られた。まだ覚えていない平仮名がある児童も、尋ねたり表で調べたりしながら一生懸命書いていた。6月末に行った書写に関するアンケートでは、多くの児童が「文字を書くのが好き」「文字を書くことが上手になりたい」と答えた。今後も、様々な学習活動において、文字で思いを伝えるという場面は多い。自分の書いた文字が好きという思いを膨らませながら、文字を大切に作る心を育む書写教育を進めていきたい。

「姿勢と鉛筆の持ち方」は、全ての学習の基本であるとともに、生涯にわたって影響を及ぼすものである。これまでに児童は、字を書く姿勢や鉛筆の持ち方を意識し、学習を積んでいる。そこで、よい姿勢とよい持ち方の定着は簡単なことではないため、教室掲示を工夫し、合い言葉や書写体操で繰り返し意識付けを行っている。次に、平仮名の学習では、終筆（とめ、はね、はらい）の書き方や書き順、始筆の位置、送筆（まがり、おれ、おりかえし）の書き方、拗音・促音の大きさや書く位置を学習してきた。水書や砂文字、また、粘土や紐、ホワイトボードなどの様々な道具を使ってきたことで、書くことがより身近なものとなり、児童の関心や意欲に高まりが見られる。

本単元では、文字学習の始めとして、平仮名の書き方を学習する。平仮名一文字一文字の「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おれ・おりかえし」「おすび」などの書き方や書き順、拗音・促音などの書き方を理解し、語句や文の中で正しく書くことができるようにしたい。

本時は、文字の形の違いに気を付けて、正しく書くことをねらいとしている。外形の違いを意識して「せみ」「のり」の練習ができるようにする。その際、ICT機器や形をかいた透明シートを活用し、視覚的に示す手立てとする。また、横長や縦長に書くためには始筆をどこにするとよいかを確かめさせる。さらに、相互評価（ペア活動）や自己評価を取り入れ、自分の文字のよさや成長に気付くことができるようにする。それらによって書くことへの意欲を高め、日常生活に生かしていくとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 平仮名の始筆や送筆、終筆の書き方を理解し、文字の外形や書き順に気を付けて、正しく書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	平仮名の始筆や送筆、終筆の書き方を理解し、外形や書き順に気を付けて、正しく書いている。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（10時間）

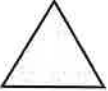
- 第一次 せんの おわりの かきかた・・・1時間
 第二次 かきじゅん・・・・・・・・・・1時間
 第三次 じを かきはじめる ところ・・・1時間
 第四次 せんの とちゅうの かきかた・・・2時間
 第五次 にて いる ひらがな・・・・・・・・2時間
 第六次 ますめの なかの かくところ・・・1時間
 第七次 じの かたち・・・・・・・・・・1時間（本時）
 第八次 ひらがなの ひょう・・・・・・・・1時間

6 本時の学習

（1）目標

- 字形に気を付けて、正しく書くことができる。
 ○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。  しかく  さんかく  まる じの かたちに きを つけて かこう。	1 試し書きから、本時の学習のめあてをつかませる。	
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・形シート ・ICT機器	ア文字の外形を理解し、字形に気を付けて正しく書いている。(観察)
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。	3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・めあてを確認し、評価の観点を具体的に示す。	イ②自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。(発言・観察)
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、日常に生かそうとする意欲を高める。	

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア	それぞれの平仮名の外形を理解し、字形を整えて正しく書いている。
イ②	自分や友達の文字のよさを見つけて、進んで伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

ア	練習用紙や形カードなどで視覚的に理解できるようにする。
イ②	めあてを確認し、自分や友達の文字のよさを見つけれられるように助言する。

第2学年 国語科（書写）学習指導案

第2学年 23名

指導者 福本 淳子

黒田 京子

青木 美恵

1 単元 かん字の 学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、書写学習に意欲的に取り組む児童が多い。6月に行った書写に関するアンケート調査では、ほぼ全員が「文字を書くことが好き」だと答え、「字を書くことが上手になりたい」という願いをもっていることが分かった。その理由として「今よりも、もっときれいに書けるようになりたい」「家族や先生にほめられたい」「みんなのようにきれいに書けるようになりたい」などが挙げられていた。しかし、「自分の書いた文字は好きですか」の質問では、否定的な意見も見られ、「もっとうまく書きたい」「自分の字はうまくない」と、自分の文字への自信のなさがかがえた。これらのことから、児童一人一人が自他の成長を感じ、自信を育む書写学習を進めていきたいと考える。

本単元では、1年生で学習した漢字の始筆・送筆・終筆の書き方や前単元の片仮名の学習を生かして、漢字の字形を整えて書くためのさまざまな要素を学習する。漢字の書き順や画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方と交わり方などを通して、児童が点画どうしの関係を理解し、字形を整えられるようにしたい。さらに、文字の中心や文字の形では、全体としてのバランスのとり方を学び、日常生活での招待状やお礼の手紙、年賀状を書く活動につなげていきたい。

本時では、「画のつき方」を学習する。前時に学習した「画がつく位置」について確認し、画のつき方を意識して漢字を見たり書いたりさせたい。その方法としてICTや教具を活用し、児童に視覚的に示す手立てとする。また、児童に自分のめあてをしっかりとつかませ、練習方法を選択できるような場を設定することで、主体的な学びにつなげたい。さらに、友達と学び合う中で自他の成長を実感し、書くことの楽しさを味わうことができるように、相互評価や自己評価の場を取り入れていく。自分の成長に気付くことで文字を書くことに対する自信や喜びにつなげたい。そして、書くことを楽しみ、学習や日常生活に進んで生かしていこうとする意欲や態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 漢字の書き順や画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方・交わり方、文字の中心などの字形の整え方を理解して、字形を整えて書くことができる。
- (2) 字形や書き方の似ている文字に気を付けて、正しく書くことができる。
- (3) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	① 漢字の書き順や画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方・交わり方、文字の中心などの字形の整え方を理解して、正しく書いている。 ② 字形や書き方の似ている文字に気を付けて正しく書いている。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（24時間）

第一次 書きじゅん・・・・・・・・ 2時間
 第二次 画の方こう・・・・・・・・ 3時間
 第三次 画の長さ、画と画との間・・ 3時間
 第四次 画のつき方と交わり方・・ 4時間（本時 2/4）

第五次 文字の中心・・・・・・・・ 3時間
 第六次 よこ書きの書き方・・・ 1時間
 第七次 年がじょうと書きぞめ・・・ 5時間
 第八次 文字の形・・・・・・・・ 3時間

6 本時の学習

（1）目標

- 画のつき方に気を付けて、いろいろな文字を書くことができる。
- 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 本時の学習のめあてをつかませる。 ・ICTを活用し、視覚的につかませる。	
	家新石音 画のつき方に気を付けて、いろいろな文字を書こう。		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・分解文字 ・ホワイトボード ・砂文字 ・水書シート	ア①画のつき方に気を付けて正しく書いている。（観察）
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。	3 自分のめあてを意識できるようにする。	イ②自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。（発言・観察）
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。	

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア①	画のつき方に気を付けて、いろいろな文字を正しく整えて書いている。
イ②	自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）

ア①	砂文字や分解文字などを使い、文字のつき方が視覚的に分かるようにする。
イ②	めあてを確認し、自分や友達の文字のよさを見つけれられるように助言する。

第3学年 国語科（書写）学習指導案

第3学年 21名

指導者 町田 真紀

澤田 恭子

折野 美穂

1 単元 「はらい」の筆使い

2 単元について

本学級の児童は、3年生になって書き始めた毛筆での学習に意欲的に取り組んでいる。運筆の基本や書く時の姿勢、準備や後片付けなど、初めてのことに戸惑いながらもうまく書けたときの喜びを共有し、筆で文字を書くことに挑戦している。一方、毎日のノートや日記の文字を見ると、文字が乱雑になったり字形を整えて書くのが難しかったりする児童も少なくない。毛筆の学習が日常の文字の丁寧さに結びついていない様子も見られる。

書写に関するアンケートによると、ほとんどの児童が「文字を書くことが上手になりたい」と回答していた。その理由として、「きれいに書けるとうれしい」「おうちの人に褒められたいから」「大人になってもきれいな字を書きたい」という前向きな理由を挙げていた。しかし「自分の書いた文字はすきですか」の回答に対しては、「きたないから」「じょうずでない」「もっときれいな人がいるから」など、全体の半分の児童から否定的な意見が見られ、自分の文字への自信のなさうかがえた。これらのことから、筆使いの基本を繰り返し学ぶ中で、児童が自分の伸びを実感し、お互いに認め合って書くことの喜びを感じる書写学習を進めていきたいと考える。

本単元では、「大」を教材文字として、「左はらい」「右はらい」の理解と習熟がねらいとなる。第一次では、払いの基本的な筆使いと違いを理解できるようにする。動画や範書、空書きなどで筆圧を調節することを意識させる。「左はらい」では、始筆の角度のまま筆を運び、力を抜きながら穂先をそろえてゆっくり払う。「右はらい」は、徐々に力を加えていき、最下部で最大の筆圧になったときに一度止め、徐々に力を抜きながら横に払う。その際、力の入れ方や抜き方を意識できるようイメージをもたせたい。第二次（本時）は、前時に引き続き分解文字や筆圧のかけ方を意識できる部分練習、一画目の始筆だけを示したシート、外形シート等を主体的な学習になるように練習方法を選択させ、児童が工夫して練習できるようにする。そして、前時に書いた文字と本時のまとめ書きを比較し、友達と交流したり、評価し合ったりして自他のよさを認め合うことによって、意欲的に書写学習に取り組み、日常生活に生かしていこうとする態度を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 左右の「はらい」の筆使いの違いを理解し、字形を整えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	左右の「はらい」の筆使いの違いを理解している。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（3 時間）

第一次 左右の「はらい」の筆使いの違いに気を付けて書こう。・・・・・・1 時間

第二次 左右の「はらい」の筆使いの違いに気を付けて字形を整えて書こう。・・・・・・1 時間（本時）

第三次 「はらい」の方向に気を付けて、硬筆で字形を整えて書こう。・・・・・・1 時間

6 本時の学習

（1）目標

○左右の「はらい」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書くことができる。

○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 本時の学習のめあてをつかませる。	
	大 「はらい」の筆使いに気を付けて書こう。		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。 ・互いにアドバイスし合いながら練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・シート	ア左右の「はらい」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書くことができる。（観察）
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・自己評価をする。 ・ペアで相互評価し確認する。	3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるように助言する。 ・一人一人の児童の変容を見取り、そのことを適宜伝え、ペアでの交流を活発なものにする。	イ②自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。（発言・観察）
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。	

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア	左右の「はらい」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書くことができる。
イ②	自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

ア	分解文字等を使って、左右の「はらい」の筆使いを理解できるようにする。
イ②	自分や友達の文字が、めあてに合った練習方法によりどのようによくなったか気付くことができるよう助言する。

第4学年 国語科（書写）学習指導案

第4学年 13名

指導者 齋藤 沙也佳
上杉 礼央

1 単元 文字の組み立て方（上下）

2 単元について

本学級の児童は、様々なことに意欲的に取り組んでいる。国語科のお世話になった先生にお礼の手紙を書く学習や出前授業の講師の先生への感想文では、感謝の気持ちを伝えようと、心を込めて書いていた。6月に行った書写に関するアンケートでは、全員が「文字を書くとき、見てくれる人を意識している」「字を書くことが上手になりたい」と答えた。理由として「きれいな字を見てほしいから」「きれいに書くと心がすっきりするから」「字が汚いから上手になりたい」などが挙げられた。しかし「文字を書くことが好きですか」という質問に対しては、否定的な意見がみられ、理由としては「全然きれいに書けないから」「文字が雑だから」など、自分の書いた文字に自信をもつことができない様子が見え始める。このことから、授業を通して、児童が前時より少しでも成長できたと感じられたり、上手に書けるようになったと思えるようにしたりすることで、書くことに対する意欲や関心を高めていきたい。

本単元では、「竹笛」を教材文字として、上下の組み立て方を理解し、字形を整えて書くことを学習する。前単元の「土地」では、「へん」と「つくり」の幅が狭くなり、点画が変化してゆずりあっていることを学習した。それを踏まえて、上下の組み立て方においても、高さの変化、点画の変化が生じることを理解させたい。第一次では、上下の部分の高さと点画の形の变化に気付かせたい。第二次では、上下の部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書くように意識させたい。第三次では、毛筆で学んだことを生かして、硬筆で字形を整えて書くとともに、他字への応用にも広げていきたい。

本時は、上下の組み立て方に気を付けて書くことを意識させるために、いろいろな種類の練習用紙や水書用紙、分解文字などを使って高さや傾きが確認できるコーナーを用意しておく。また、試し書きからの成長を感じられるように、相互評価や自己評価をさせる。その際、タブレット端末を使い、試し書きとまとめ書きを比較し、友達と交流する。他者から認められたことや自分のよさに気付くことで、自己の成長を実感させるとともに、書くことに対する意欲を高め、日常生活に生かしていこうとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 上の部分と下の部分の高さと点画の形の变化について理解し、上の部分と下の部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	上の部分と下の部分の高さと点画の形の变化について理解し、上の部分と下の部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書いている。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてを考えて意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の書いた文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（3時間）

第一次 上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて書こう。・・・・・・1時間（本時）

第二次 上の部分と下の部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こう。・・・・・・1時間

第三次 上の部分と下の部分の組み立て方に気を付けて、硬筆で字形を整えて書こう。・・・・・・1時間

6 本時の学習

（1）目標

○上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて書くことができる。

○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 本時の学習のめあてをつかませる。	
	竹 笛 上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて書こう。 ・「たけかんむり」と「由」のゆずりあい ・「竹」の高さや字形		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・動画 ・水書用紙 ・分解文字 ・字形確認シート	ア上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて正しく書いている。(観察)
確かめる	3 本時のまとめ書きをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。	3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・評価の観点を具体的に示す。	イ②自分や友達のよいところを見つけて伝えようとしている。(観察・発言)
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時を振り返り、次時の学習につなげる。	

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア	上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて正しく書いている。
イ②	自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを進んで伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

ア	動画や水書用紙、分解文字などで視覚的に理解できるようにする。
イ②	めあてを確認し、まとめ書きから自分や友達の文字のよさを見つけれられるように助言する。

第5学年 国語科（書写）学習指導案

第5学年

13名

指導者

戎田 利彦

上杉 礼央

1 単元 筆順と字形

2 単元について

本学級の児童は、国語科の新出漢字や書写ノートでの学習の場面で姿勢を正し、文字の形を整えて丁寧に書こうと努力している様子が多く見られる。また、行事を終えての感想やゲストティーチャーへのお礼の手紙など、自分の思いを心を込めて文字に表すことができる。一方、ノートや日記の文字を見ると丁寧さが足りず雑に書いてしまう児童が数名いる。その整わない字形の理由の一つとして筆順が正しく覚えられていないこともあると思われる。

書写に関するアンケートによると、児童全員が「文字を書くことが上手になりたい」と回答していた。その理由として、「きれいに書けるとうれしい・気持ちがいい」という満足感や達成感、友達や教員からよさを認められる喜び、身近な人が書く文字への憧れなどが挙げられていた。「自分の書いた文字は好きですか」の回答に対しては、「うまく書けない」、「きれいじゃない」など、全体の3割の児童から否定的な意見も見られ、自分の文字への自信のなさうかがえた。これらのことから、児童が自他のよさを認め合い、楽しく自信をもって取り組める書写学習を進めていきたいと考える。

5年生は、学習時に書く文字の量が増える段階にある。そのため、一文字の字形を整えて書くだけでなく、文字相互の大きさを意識したり、用紙全体に対する文字の大きさや配列を考慮したりする力が必要となる。既に学んだ「文字の組み立て方（中と外の組み立て方）」、「穂先の動き」などの学習を想起させながら、毛筆で「筆順と字形」について学び、さらに硬筆の学習を通して日々の文字を書く力へとつなげたい。

本単元では、「成長」を教材文字として、筆順に気を付けて字形を整えて書くことや「左はらい」や「横画」、「たて画」と「横画」の筆順と点画の接し方に気を付けて書くことを学習する。第一次では、分解文字や一画目の始筆だけを示したシートを準備し、筆順や接し方が意識できるようにする。第二次（本時）は、外形シートやかご字、始筆を示したホワイトボードを準備し、主体的な学習になるように練習方法を選択しながら、工夫して練習できるようにする。そして、タブレット端末で前時に書いた文字と本時のまとめ書きを比較し、友達と交流したり、評価し合ったりして自他のよさを認め合うことによって、意欲的に書写学習に取り組み、日常生活に生かしていこうとする態度を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 「左はらい」と「横画」、「たて画」と「横画」の筆順と点画の接し方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	「左はらい」と「横画」、「たて画」と「横画」の筆順と点画の接し方に気を付けて、字形を整えて書いている。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（3 時間）

第一次 筆順と字形（点画の接し方など）との関係を意識して書こう。・・・・・・1 時間

第二次 筆順と字形（点画の接し方など）に気を付け、整えて書こう。・・・・・・1 時間（本時）

第三次 筆順を意識して、硬筆で字形を整えて書こう。・・・・・・1 時間

6 本時の学習

（1） 目標

○筆順を意識し、「左はらい」と「横画」、「たて画」と「横画」の筆順と点画の接し方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。

○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2） 展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 本時の学習のめあてをつかませる。	
	成長 筆順に気を付けて、字形を整えて書こう。 ・筆順 ・字形		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。(半紙の折り方など) ・互いにアドバイスし合いながら練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・ホワイトボード ・シート ・分解文字	ア筆順と字形、点画の接し方などに気を付けて、字形を整えて書いている。(観察)
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・自己評価や相互評価をする。 ・まとめ書きをペアで確認する。	3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるように助言する。 ・一人一人の児童の変容を見取り、そのことを適宜伝え、ペアでの交流を活発なものにする。	イ②自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。(発言・観察)
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。	

（3） 評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア	筆順と字形との関係を理解することができ、点画の接し方に気を付けて書いている。
イ②	自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

ア	分解文字などを使って、筆順と字形との関係を理解できるようにする。
イ②	自分や友達の文字が、めあてに合った練習方法によりどのようによくなったか気付くことができるよう助言する。

第6学年 国語科（書写）学習指導案

第6学年 36名

指導者 岡本 豪

天野 真吾

1 単 元 文字の大きさと配列、点画のつながり

2 単元について

本学級の児童は、書写の学習に落ち着いて取り組むことができている。運動会のスローガンや団旗製作では、互いに声をかけ合いながら、見てくれる人を意識して一文字一文字丁寧に書く姿が見られた。また、よりよい学級にしたいという思いを込めて考えた学級目標を大きく掲示物に表現する中で、きれいに書けたことを友達に伝えたり、互いに文字をほめ合ったりする姿があり、仲間の存在が学習意欲を高めている。

書写に関するアンケートでは、「文字を書くとき、見てくれる人を意識しているか」「文字を丁寧に書くように気を付けているか」という質問に対して9割の児童が肯定的に回答していた。理由としては、「相手が読みやすいようにしたい」「ほめてもらえたらうれしいから」といった、文字を見てくれる人を意識してのものが多かった。しかし、「自分の書いた文字は好きですか」という問いに対しては、約半数の児童が否定的に答えていた。相手を意識して丁寧に文字を書く一方で自分の文字に自信が持てないなど、自己肯定感の低さも見られる。そのため、他者との交流を通して自分自身を見つめ、成長を実感できる書写学習を進めていきたい。

本単元では、「思いやり」を教材文字として、「漢字と平仮名」のつり合いと、一文字の中での「点画のつながり」を意識した書き方を学習する。前学年の「あこがれ」で学習した、次の線へつながるような気持ちで穂先を動かしていく書き方を想起させ、まずは「思」の「心」の部分に着目させ、点画のつながりを指導する。「漢字と平仮名」のつり合いについては、あらかじめ、文字の外形や中心線を書き込んだ練習用紙を用いたり、半紙の折り方を指導したりすることで、紙面と文字の相対的な大きさや配列を意識できるようにする。また、単元を通してどの文字も一文字を書き上げるまでなるべく墨をつけ直さないで気持ちをつなげて書く習慣を身に付けさせたい。第二次では、前時に引き続き、文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付けて練習を重ねる。その際、一文字ずつに分けた練習用紙や分解文字などを準備し、それぞれがめあての達成に向けて主体的に練習の場を選択しながら学習できるようにする。さらに、付箋を教材文字や試し書きに貼り、めあてを視覚化し友達と相互に評価し合うことで、互いの文字の変容をわかりやすく共有し活発な交流へとつなげていく。これらの活動を通して、互いの文字のよさを認め合い、自分が書いた文字を大切に感じられるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付け、自分の課題を考えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	用紙に対する文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付けて書いている。
イ	主体的に学習に取り組む態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（3時間）

第一次 文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解して書こう。・・・1時間

第二次 文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付け、めあてを考えて書こう。・・・1時間（本時）

第三次 点画のつながりを意識し、文字の中心に気を付けて、硬筆で書こう。・・・1時間

6 本時の学習

（1）目標

○文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付けて、字形を整えて書くことができる。

○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 本時の学習のめあてをつかませる。	
	や 思 り い 文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付けて書こう。		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。 ・互いにアドバイスし合いながら練習する。	2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・ホワイトボード ・シート ・分解文字	ア文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付け、字形を整えて書いている。 (観察)
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・自己評価や相互評価をする。 ・まとめ書きをペアで確認する。	3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるように助言する。 ・一人一人の児童の変容を見取り、そのことを適宜伝え、ペアでの交流を活発なものにする。	イ②自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。 (発言・観察)
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。	

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア	文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解し、字形を整えて書いている。
イ②	自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

ア	練習用紙や分解文字等を使って、点画のつながりを理解できるようにする。
イ②	自分や友達の文字が、めあてに合った練習方法によりどのようによくなったか気付くことができるよう助言する。

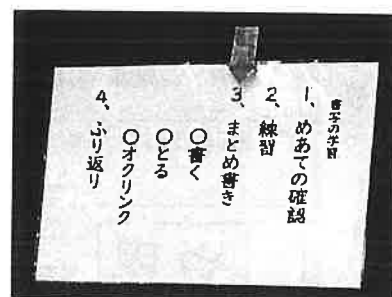
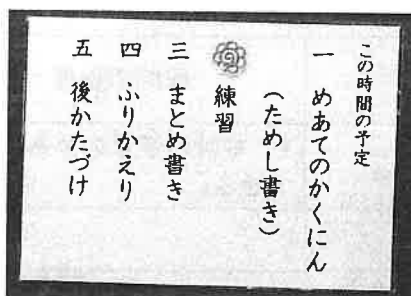
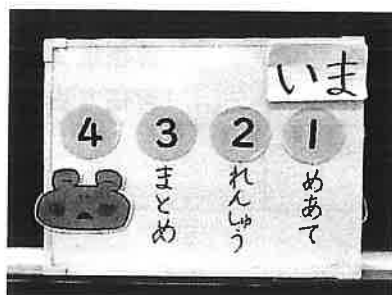
2 授業改善及び指導・支援

(1) つかむ

見通しをもち、主体的に学ぶ学習の流れの視覚化

①本時の流れの掲示

子どもが主体的に学習を進められるよう、全ての学年で授業の流れを視覚化し、毎時間掲示した。各学年の発達段階に応じて変更・改善を加えることもあるが、授業の流れをパターン化することで、子どもたちは見通しをもって学習を進めることができた。



②自分のめあての確認

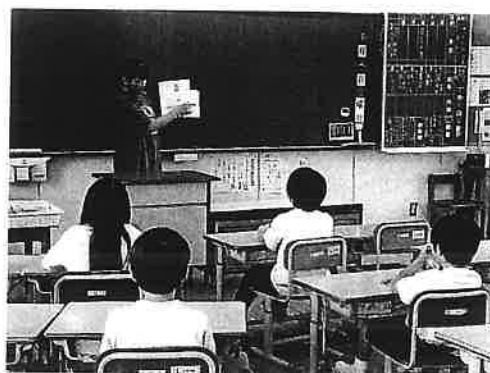
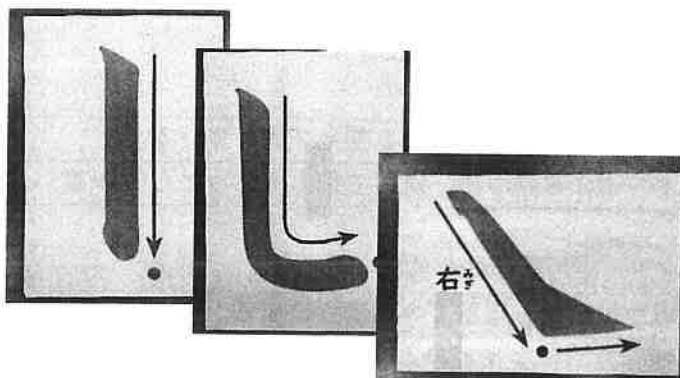
本時のめあてを全体で共有することはもとより、教材文字と自分の試し書きを見比べて、自分のめあてを具体的に立てた。そのめあてを隣の席の友達に話したり付箋に書いて教材文字に貼ったりすることで、めあてをより意識できる手立てとした。



めあてのつかませ方（焦点化）、導入の工夫

③フラッシュカード

2年生で、書写の学習を進めていると「(自分の文字が教材文字と)比べて違うのは分かるけど、どう言ったらいいのか分からない」とつぶやいた子どもがいた。そこで、書写学習の用語をフラッシュカードで唱えて授業を始めることにした。だんだんと子どもに書写学習の語彙が増え、「1画目のはらいの方向に気を付ける」「3画目と4画目の交わり方に気を付けて書く」など具体的なめあてを考えられるようになってきた。



④いろいろな範書

3年生教材「大」の学習では、第一次で左右の「はらい」の筆使いの違いを学習した。その際、右はらいの筆使いで、はらう前にとめることができていない子どもが多かった。そこで、第二次では範書と空書きでもう一度筆使いを確かめさせた。

範書で右はらいを止めずに書いた場合と止めて書いた場合の教材文字を提示し、その違いを話し合った。うまくいかなかった点を右はらいのとめることに焦点化することで「とめ」の大切さを確かめることができた。



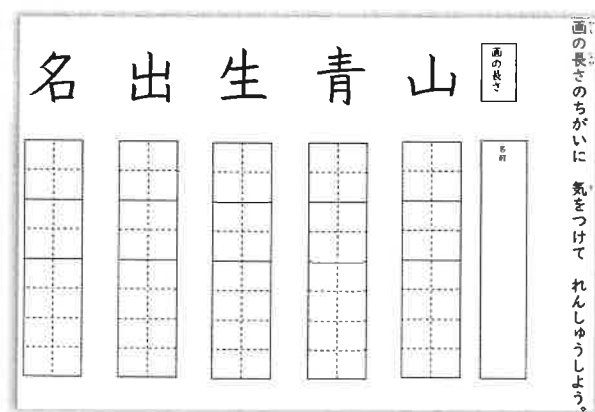
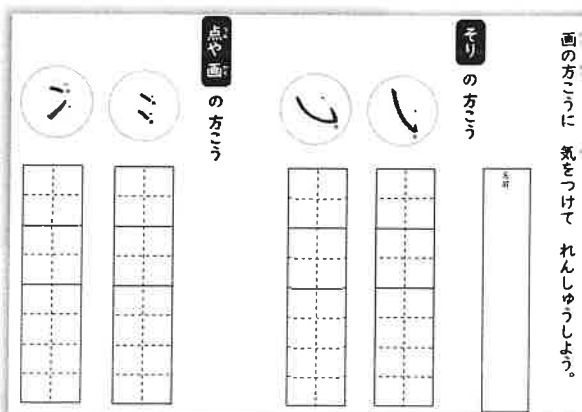
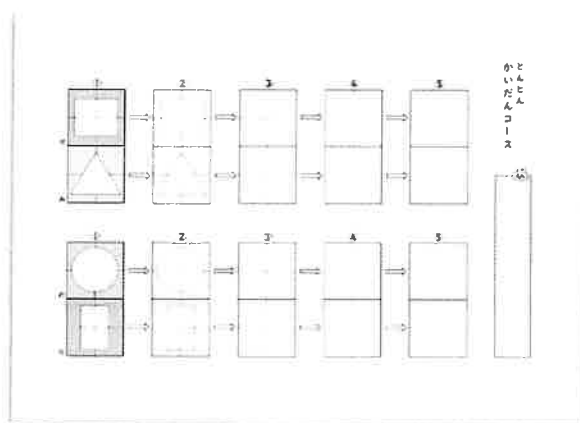
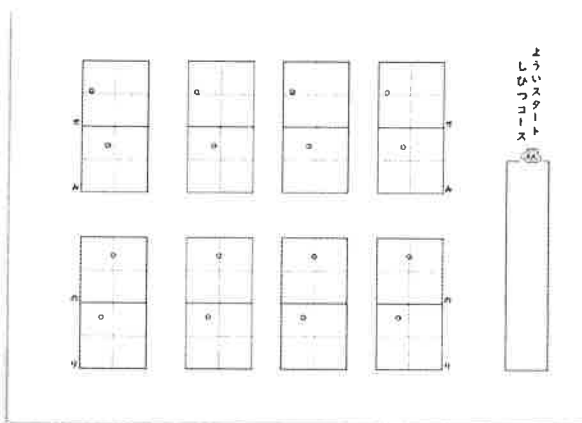
(2) 高める

多様な練習方法や場の設定

～硬筆～

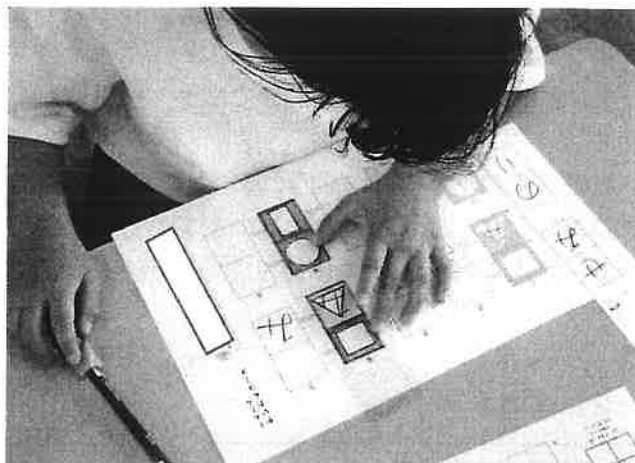
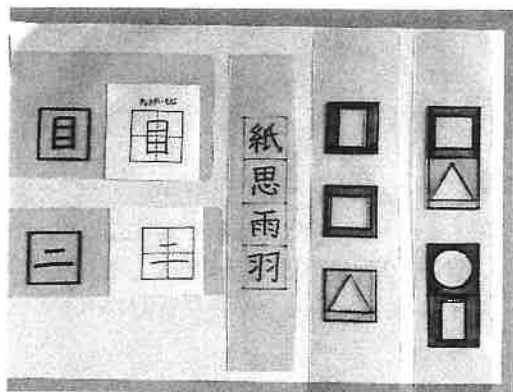
①各種練習用紙やシート

なぞり書きができるものや、始筆の位置を示したもの、枠だけのもの、字形を意識できるものを用意し、子どもたちが選択できるようにした。教材文字は、練習するマスの横（右利き児童はマスの左、左利きの児童はマスの右）に置くことができるように、練習用紙とは別の細長い用紙を準備した。



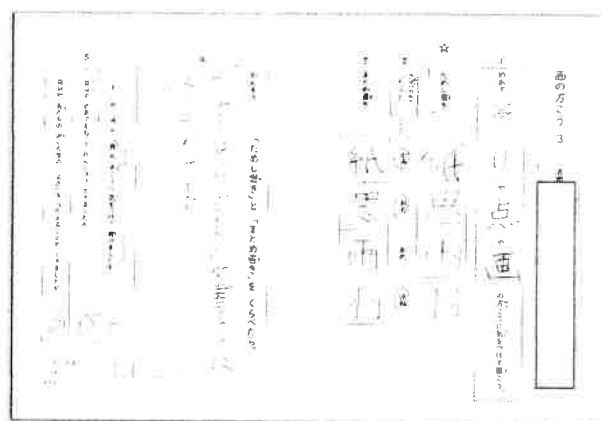
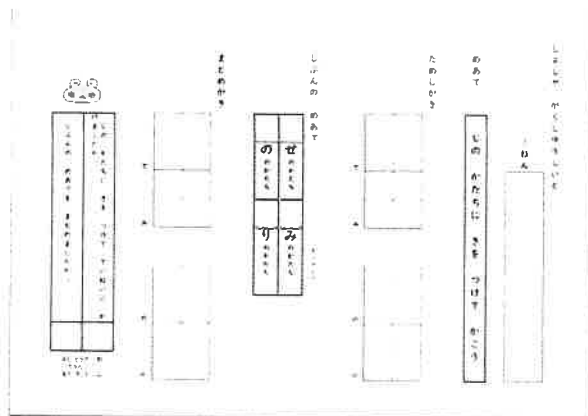
②形シート・教材文字シート

試し書きや練習した文字に透明のシートを重ねることで、自分の課題を見つけられた。



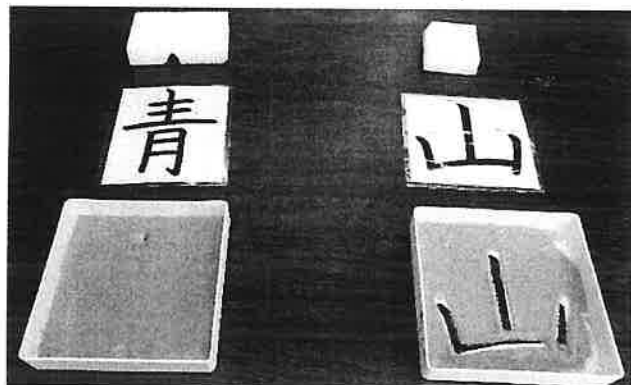
③試し・まとめ書きワークシート

書く内容を焦点化して作成した。めあて、試し書き、まとめ書き、友達への相互評価の言葉を書いた。自分の意見や思いを予め書いておくことで、発表が苦手な子どもへの手立てとした。

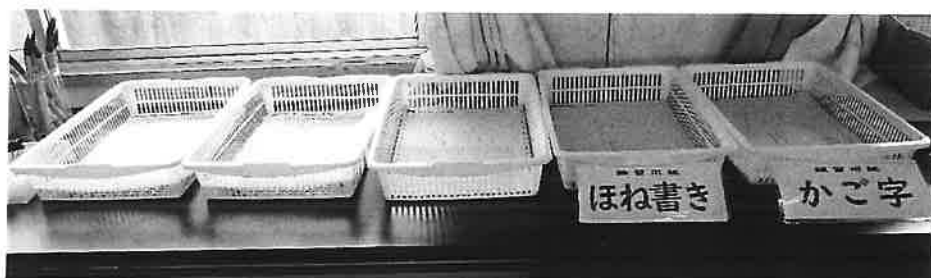


④砂文字

容器に薄く敷き詰めた砂に、指で文字を書く。砂の下には教材文字があり、画の方向や長さなどを確かめることができる。教室にコーナーを設置することで、休み時間にも進んで練習する姿が見られた。



～毛筆～



⑤練習用紙

子どもが自分のめあてに応じて練習方法を選べるように、部分練習ができるもの、かご字、ほね書きなどを用意した。



⑥水書用紙

墨の汚れを気にせず使用できるので、授業中だけでなく休み時間にも練習する子どもが多かった。



⑦分解文字

一画ずつ操作することで、点画のつき方や交わり方、文字全体のバランスなどを確認して練習できた。

筆や墨の扱いに苦手意識がある子どもにとっても取り組みやすいようであった。

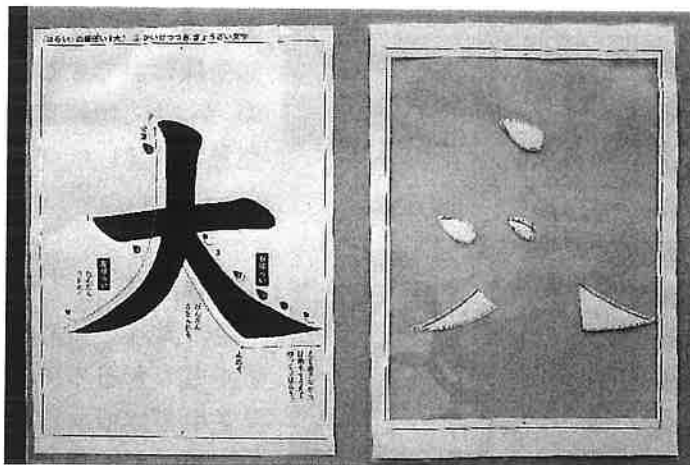


⑧写しシート

半紙の下に敷いて、文字のバランスやはね、折れの練習ができるようラミネートのシートを用意した。教材文字のままのものと白黒を反転したもの、白抜き文字にしたものを用意し、子どもが使いやすいシートを選べるようにした。

⑨たしかめシート

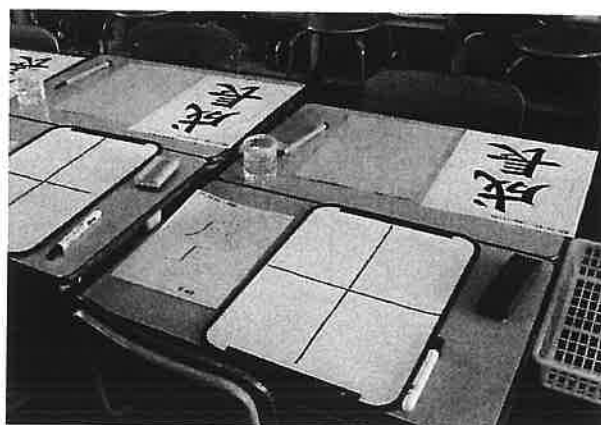
書いた文字の上に乗せて、始筆や払い、字形や文字のバランス、中心が合っているかなどを確かめられるシートを用意した。透明のシートなので自分の文字との比較がしやすく、修正点を見つけやすいものであった。



⑩ホワイトボード

中心線を引いたホワイトボードと筆タイプのホワイトボードマーカーを用意した。すべりやすく消しやすいので、毛筆を苦手と感じている子どもが楽に取り組めた。

ペン先の太さに応じてホワイトボードの大きさや枠を変えることが改善点として挙げた。

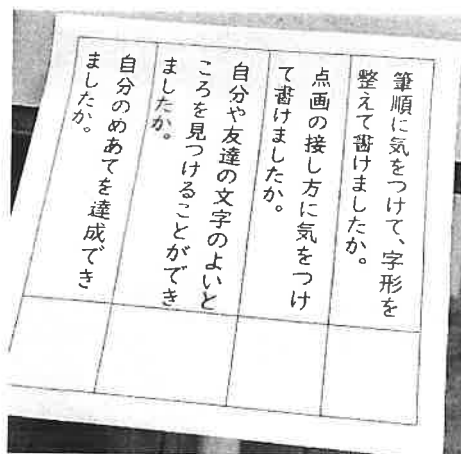


(3) 確かめる

自己評価・相互評価（共有化）

①付箋の振り返りシート

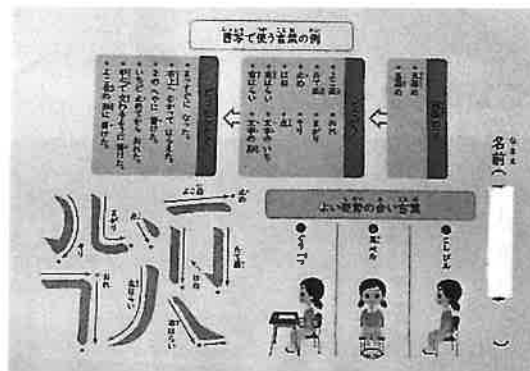
上学年で自己評価をした際に、付箋の振り返りシートを用いた。本時の評価の観点に沿った振り返りシートを付箋に印刷することで、机上のスペースを有効に使えた。教材文字に貼ることで常にめあてを意識することができる。



②言葉の例シート

書いた文字を互いに評価し合うとき、ただ「いいね」「上手」といった抽象的な言葉では、相手によさが十分に伝わらないことがあった。そこで、評価するときに使える「言葉の例シート」を配付した。シートには、「何画目」「どこが」「どうなった」が具体的に表現できる例を示した。

子どもたちは書写学習の用語を用いながら、『歩』の1画目と5画目が中心にそろうように書けたね』『む』の1画目の終筆が中心に来ることでバランスがよくなった」など相互評価を進めることができるようになった。また、「次は8画目の方向を直してみよう」と、自分から課題を見つけて練習に取り組む姿も見られた。



③タブレット端末を使って



自分のめあてを付箋に書き、試し書きに貼る。練習の後、試し書きとまとめ書きを並べ、タブレット端末で撮った写真を学習用ソフトの「提出箱」に送信する。お互いにめあてを確かめながら2枚を比べられるようにした。また、全体でその作品のよさやめあてが達成できている点を共有することもでき、次時への意欲を高めるのに有効であった。

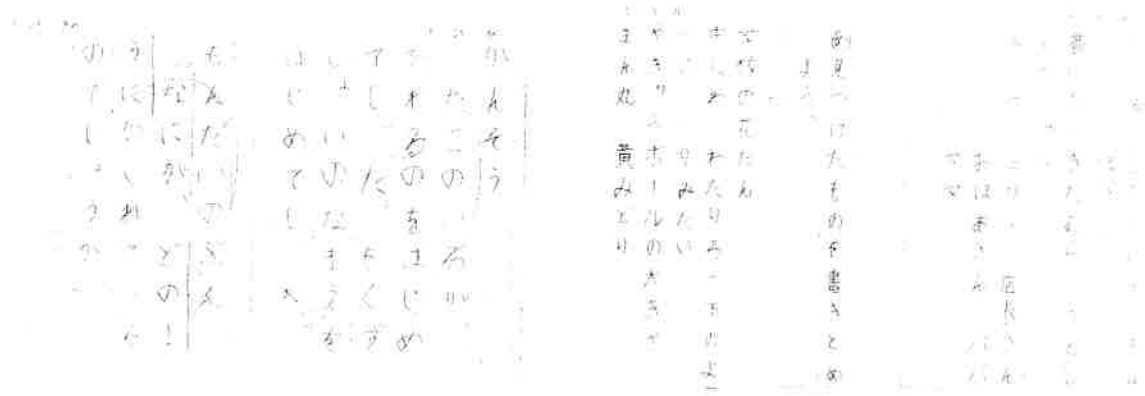
(4) 生かす

学んだことを生かす発展的な学習や取組

①七夕の短冊



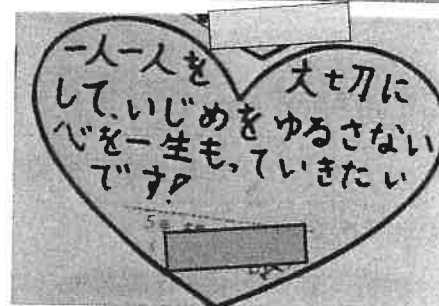
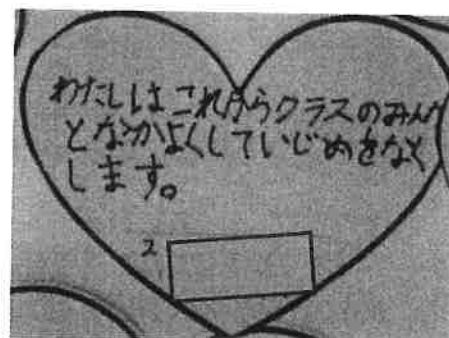
②国語のノート



③運動会スローガン



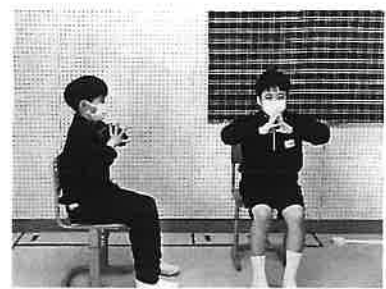
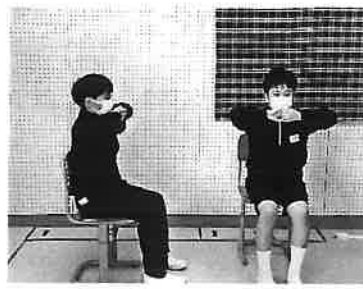
④いじめをなくそう集会の感想



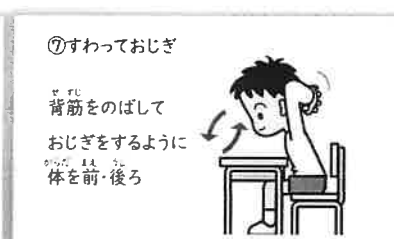
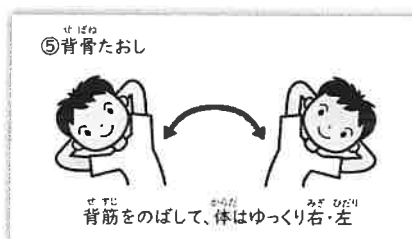
※その他

書写体操（姿勢・指の力）

保健体育委員会の子どもたちが音楽に合わせてお手本の体操をする動画を作成し、それを見ながら各学級で体操を行った。



宝っ子姿勢体操（姿勢・体幹）



プイプイ体操（「とん」「すうっ」「ぴた」始筆・送筆・終筆）

1年生に人気のキャラクターを各自が描き、「プイプイ棒」を作った。それを教科書付属の「始筆・送筆・終筆」体操のアニメーションに合わせて動かすことで、子どもたちは自分の絵が走ったり止まったりジャンプしたりすることを楽しみながら筆の動きをイメージすることができてきた。また、「とん、すうっ、ぴたっ」や「とっ、すうっ、ぴたっ、すうっ」などと必ず声に出すようにし、実際に文字を書く時へとつながられるようにした。次の段階として、棒を使わず、手をすぼめて筆の穂先のようにして行った。



異学年での交流

2年生で、書写の学習を進めていると「自分や友達の文字がよくなっているのは分かるけど、どう伝えたらよいか分からない」とつぶやいた子どもがいた。そこで、書写タイムを利用し、6年生に自分たちが練習する様子を見てもらい、ほめてもらうことにした。よくなったところを具体的に伝えてもらうことで、ほめられる嬉しさや書写学習の用語を使うよさを感じた。

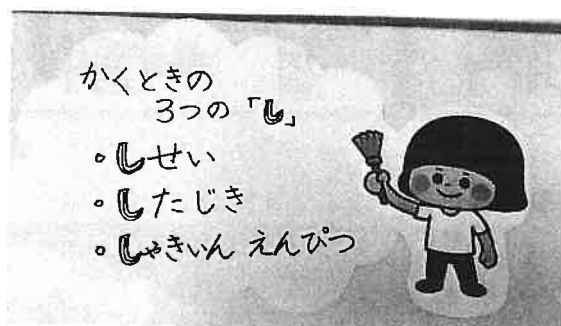


姿勢の振り返り

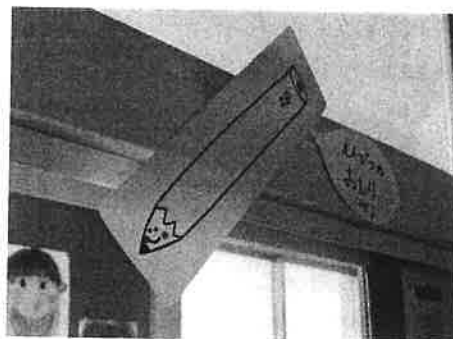
書いているときの自分の姿勢を写真に撮り、客観的に見ることで、「〇〇さんみたいな姿勢がいい」「目が近すぎる」「『足はぺったん』ができてなかった」などの感想が上がった。姿勢をよりよくしようという意識付けができた。また、机の真ん中にシールを貼り、「おへそ・シール・書くところ」の3点を合わせられるような工夫も取り入れてみた。



書くときの3つの「し」



鉛筆のおしりの向き



代表委員会による朝会での週目標発表



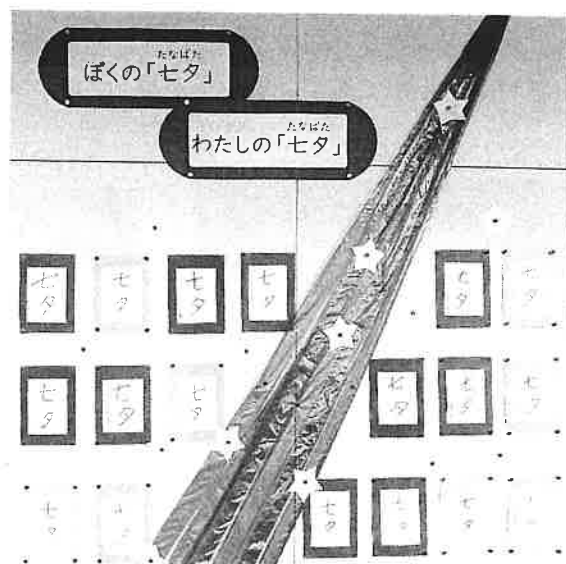
③書写ギャラリー

学年で作成した書写作品を掲示するコーナーを設け、他学年の子どもたちや保護者も見られるようにした。作品を見ながら文字に親しめるだけでなく、作品のよさや工夫に気付き、自分も書いてみたいと意欲を高めることができた。また、授業参観などで保護者の方にも見てもらうことで家庭でも自分たちが書いた文字を認められ称賛される場となり、自信につながった。

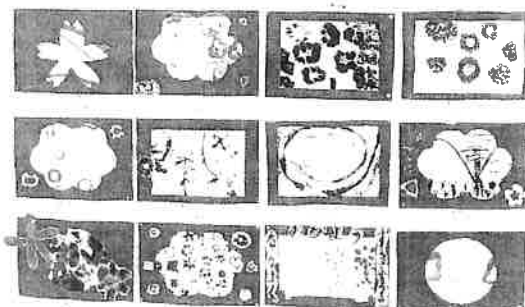
ゆびでかくってきもちいいね（1年生）



ぼくの「七夕」わたしの「七夕」（2年生）



すみのにじみを楽しもう（2年生）



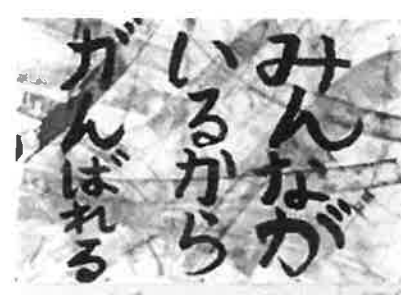
書道パフォーマンスができるまで(6年生)



カレンダーに今年の漢字を書いてみよう（3・4・5年生）



大筆で思いを伝えよう（3年生）



(2) 書くことに対する基本的な知識や技能の育成

①書写タイム

子どもへのアンケート調査や教員が書写学習で取り組ませたい内容などから、子どもの実態把握に努めた。そして、「楽しみ つながり 自信を育む書写学習」を目指し、今年度4月より水曜日の朝の活動の時間を「書写タイム」として取組を進めている。「書写タイム」では、書写の時間の充実を図るとともに、学びの日常化に向けて取り組んでいる。以下の4点を柱にして進めている。

- ・ 正しい姿勢や鉛筆の持ち方につながる活動
- ・ 文字を書く楽しさを味わう活動
- ・ 仲間づくりにつながる活動
- ・ 文字を書く知識・技能につながる活動

できあがった作品は教室や廊下に掲示し、保護者の方にも見ていただいている。



正しい鉛筆の持ち方の確認



あわスタの視写

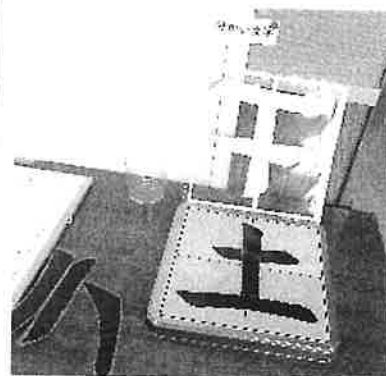
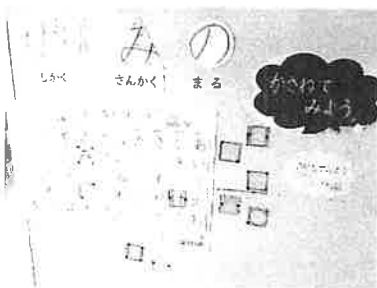


書写体操

②書写コーナー

書写の授業で行った学習活動を繰り返して体験したり様々な文字の特徴や書き方について日常的に振り返ったりすることで、子どもたちが無理なく継続的に書写活動を行うことができるよう、教室内や教室横の廊下などに「書写コーナー」を設けている。

1年生では、ひらがなの始筆の位置を考えたり、全体の字形をつかんだりできるような掲示物を設置した。



3年生では、授業での課題を意識しながら文字を完成させることができるような分解文字などを設置した。

どの学年でも休み時間には、子どもたちが友達と楽しく話しながら、字形が整うように文字を組み立ててみたり掲示物を操作したりする姿が見られた。書写の授業を振り返ることで、知識や技能の定着につながり、書字に対する意欲を高めることができている。

2 学びの日常化

(1) 書写学習と他教科等との関わり

1年生の取組「ふでで かいて 6年生に つたえよう」

憧れの6年生が書道パフォーマンスをしている姿を見て、1年生の子どもたちも「筆で書いてみたい」「大きな紙に書いてみたい」という思いをもった。そこで、ふれあいタイムの学年発表で、6年生へのサプライズとして卒業お祝いのメッセージを伝えることを目標とし、筆で一人一文字書くことにした。はじめにプイプイ体操（「始筆・送筆・終筆」を意識させるための体操）をして書き順を確かめてから、「じの おへや」に気を付けて書いた。その様子をタブレットで撮り、ライブビューイングとして友達にも見てもらうことで、いっそう気合いが入っていた。一画書くごとに歓声や称賛の声が上がる中、丁寧に気持ちを込めて書くことができた。

発表後、6年生からお礼の言葉や手紙をもらい、みんなで「自分たちの気持ちが6年生に伝わった」と喜び合った。書くことを楽しみ、相手を意識して書くことのよさを感じられた取組となった。



1年生の取組「2年生に手紙を書こう」

4月、2年生からプレゼントとして模造紙2枚の校歌の歌詞を受け取った。「これを見て歌ってね」という思いが込められたものだった。子どもたちから挙がった「うれしい」「字がきれいで読みやすい」「2年生はかっこいい」「自分もこんなふうに書いてみたい」などの感想を言葉で2年生に伝えた。

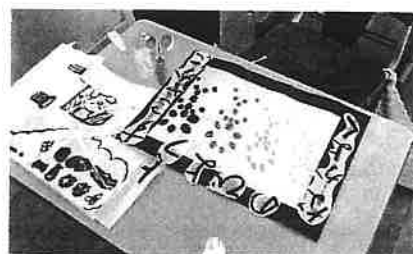
5月、2年生から学校探検への招待状が届いた。1年生が読めるよう、平仮名のみで丁寧に書かれた文字を読み、子どもたちは笑顔になった。探検後、お礼の気持ちを伝えたいという声上がり、今度は手紙を書くことにした。相手のことを思いながら、まだ習っていない平仮名も周りの人に尋ねたり自分で調べたりして手紙を完成させ、2年生に届けた。自分の書いた文字をほめてもらい、「書くこと」で気持ちが伝わる喜びを感じていた。



2年生の取組「すみのにじみを楽しもう」

2年生の子どもたちは、来年度毛筆を学習する。3年生になる前に、筆を使って文字を書くことへの前向きなイメージをもってほしいという思いからこの体験活動を計画し、実践した。

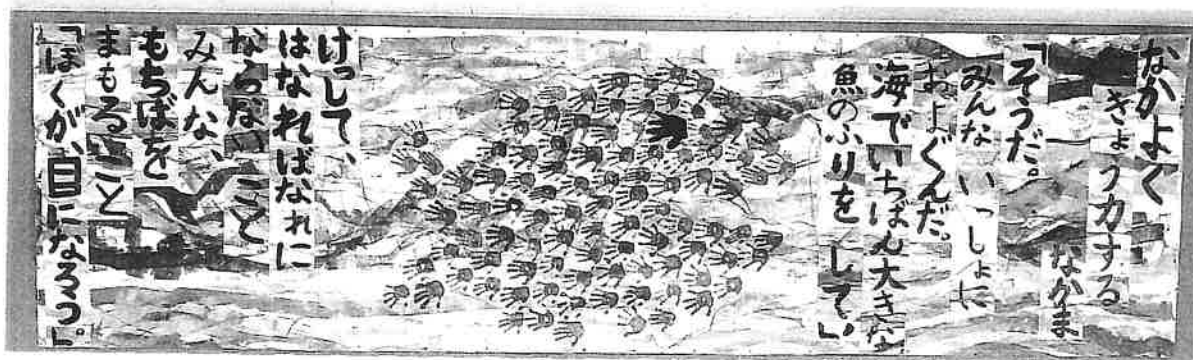
徳島県立近代美術館が発行するワークシートを用いて水墨画の鑑賞を行った後に、自分たちも筆を使うことにした。はじめに、半紙に小筆と墨で丸や点を描いた。次に、中央に水を垂らし、濃淡のある墨を使ってにじみを体験した。最後に、その作品をいくつかの形に切り抜いた色画用紙の裏に貼った。互いの作品の鑑賞をした際には、よさやがんばりを見つけて感想を伝え合っていた。また、筆に親しむことで、子どもたちから「毛筆の学習が楽しみ」という声上がるようになった。勢いよく書くと半紙が破れてしまう経験から、硬筆の際も筆圧に気を付けて丁寧に書くようになる意欲も高まった。



2年生の取組「なかよく きょうりょくする なかまになろう」

国語科「スイミー」では、「仲間と協力する大切さ」について学んだ。2年生の発達段階は、友達とのかかわりが増える一方で、まだまだ自己中心的な傾向が見られる時期である。そこで、スイミーたちと自分たちを重ねて、どのような仲間になっていきたいかを考え、みんなで文字に表すことにした。

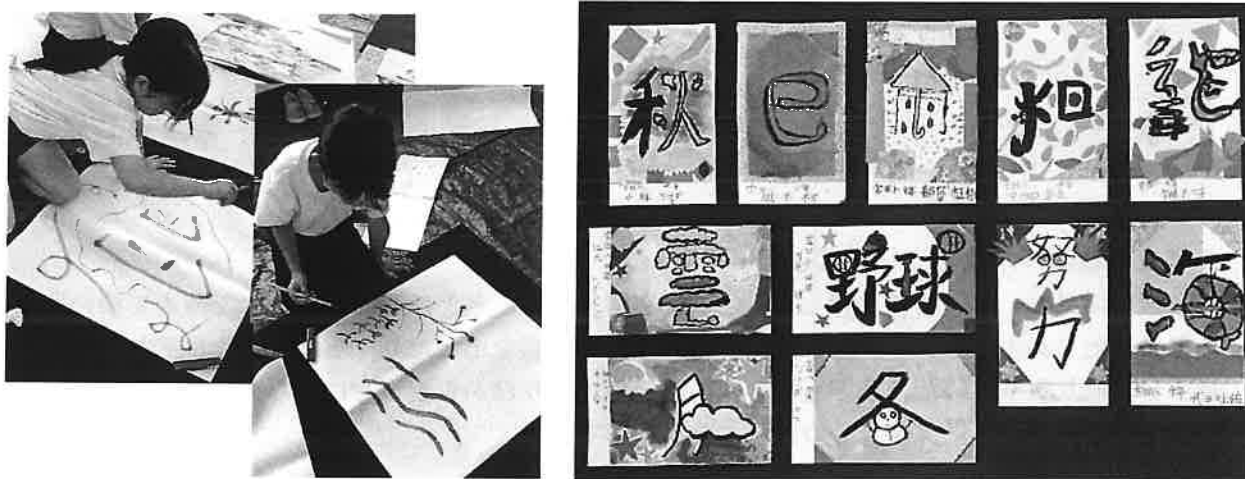
製作では、水書で筆の感覚を試したり、「とん、すうっ、びたっ」など、声に出しながら筆を進ませたり止めたりしながら、文字の形や大きさを考えて書く姿が見られた。これまでの学びを生かしながら集中して文字に向かい、友達と力を合わせて製作する様子から、継続した様々な取組が力になっていると感じた。できあがりを楽しみに進め、友達と嬉しそうに作品を見る姿も見られた。



4年生の取組「文字絵に挑戦しよう」

学級活動でゲストティーチャーを招き、文字絵に挑戦した。文字絵とは、漢字の成り立ちを理解し漢字から絵にさかのぼって表現する方法である。子どもたちは、水でするとピンク色や水色、金色などに変わる墨の中から好きなものを選び大きな和紙に文字絵をかいた。自分が表現したいものに合うように太い筆や細い筆を使い分け、墨の濃さも調節していた。金が入った和紙にまとめ書きをする際は、とても集中して取り組んでいた。かいた後は友達のところへ行き、成果を伝え合った。また、この経験を生かして、はがきサイズの和紙に筆や絵の具、千代紙などを使って「デザインはがき」を作成した。

これらの活動を通して文字の新しい書き方を知り、自由に書ける楽しさを味わった。その後も、他の漢字を文字絵で表現しようと進んで成り立ちを調べる姿が多く見られた。



5年生の取組「楽しい年賀状を作ろう」

国語科で羽ノ浦郵便局と宝田郵便局からゲストティーチャーを招き、年賀状を書いた。はじめに年賀状の意義を知った。そして、贈る相手を思い浮かべながら心を込めて丁寧に書こうとする意識を高め、宛名や前文・本文・末文の書き方や新年の挨拶の言葉を学んだ。これまでの書写学習で培った経験から、自分の書く文字に自信をもって臨む子どもが多かった。裏面には、フェルトペンを用いて今年の干支の絵を描いた。

年賀状を送ることで、離れて暮らす祖父母や友達に感謝の気持ちなどを伝えることができ、相手とつながる楽しさを感じられる活動となった。そして、これからも感謝の気持ちを言葉や文字で伝えていこうとする意欲にもつながった。



6年生の取組「学級目標を書こう」

学級目標について、みんなで話し合っただけで決めた言葉を大きな紙に書くことにした。一文字ずつ交代しながら心を込めて書くことで、「自分たちの手でクラスをよりよくしていこう」という気持ちを共有することができた。登校して教室に入るたびに、廊下に掲示した目標が自然と目に入り、日々の生活の中で意識して行動するきっかけとなった。また、この目標を達成するために自分ができることを星形の用紙に書いて、学級目標を囲むように飾った。この文字により、学級の一員として、そして全校のリーダーとして役割を果たすことを、子どもたちは日々確認できている。



6年生の取組「水墨画に挑戦しよう」

図画工作科で、水墨画に挑戦した。毛筆で文字を書くときとは違い、墨を水で薄めて淡い色合いを表したりあえて筆をかすれさせて岩肌のような質感を出したりするなど、それぞれが工夫を凝らして取り組んでいた。子どもたちは、黒一色でありながら濃淡やにじみ方によって多様な表現が生まれることに気づき、その奥深さを楽しんでいた。



(2) 社会に開かれた教育活動の工夫

3年生の取組「大筆で思いを伝えよう」

災害時の避難場所に指定されている阿南光高校と防災の交流学习を行った。子どもたちは交流を通して、いのちの大切さを学ぶことができた。その時に感じた思いや大切にしたい言葉を、普段使う筆よりも大きな筆を使って表現したいと考えた。友達同士でアイデアを出し合い、どんな言葉がふさわしいかを考えながら取り組んだ。子どもたちは、「輝こう自分らしく」「自分の個性を大切に」などの温かい言葉を考えていた。書くときには、丁寧に筆を運び、文字のバランスや字形に気を配る姿も印象的だった。また、「ここをもう少しゆっくり書いたほうがいいよ」「力強くいい感じ」とお互いにアドバイスをしたり、よいところを見つけてほめ合ったりしていた。さらに、お世話になった方々のことを思いながら感謝の気持ちを込めて言葉を書く姿が見られた。みんなで協力し、思いを大きな紙に力強く表現できた貴重な時間となった。



3年生の取組「夏らしい言葉を風鈴に書こう」

国語科「きせつの言葉 夏の暮らし」で、生活の中で夏を感じる言葉を考えた。自分が選んだ夏の言葉を試し書きした後に、好きな色の画用紙にまとめ書きをした。短冊や風鈴に夏らしいイラストを添え、自分だけの風鈴をつくろうと主体的に取り組むことができた。

完成した風鈴は児童玄関に掲示した。暑い中、個人懇談や所用で来校した保護者や地域の方々に、夏らしい音色とともにこの作品を見ていただくことができた。



4年生の取組「うちわに好きな文字を書こう」

一人一人の願いや思いを大切にしよう自分の好きな文字を一文字選び、うちわに筆で書いた。子どもたちは、自分や家族の名前の一文字、生き方や他者への思いやりなどを表す一文字、自分ががんばっていることや将来の夢に関連する一文字を選んでいった。そこに人権の花活動で自分たちが育てたマリーゴールドの絵も添えた。

できた作品は、児童玄関に掲示し、多くの方々に見ていただくことができた。



6年生の取組「書道パフォーマンスをしよう」

「大きな紙に文字を書いてみたい」という子どもたちの思いから、10月に四国大学書道文化学科の皆さんにご協力いただき、本校の体育館で書道パフォーマンスを鑑賞した。息の合ったかけ声やダイナミックな筆使い、絵と文字で仕上げられた作品を見て、「自分たちもやってみたい」という思いを強めた。1月のパフォーマンスでは、「卒業する自分たちから後輩へ伝えたいこと」について考え、何度も相談して言葉を決めた。練習する中で、自分たちが主体となってパフォーマンスを進めようとする意見が出るようになってきた。

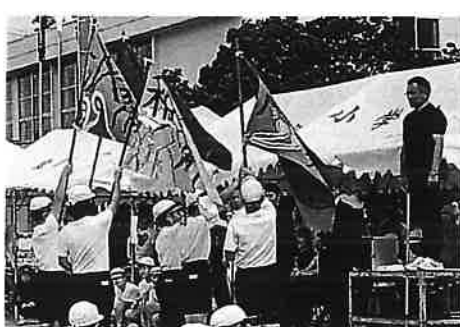
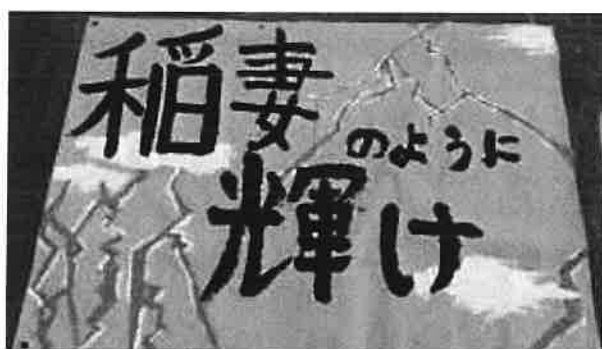
当日は、下級生や教員、6年生の保護者の皆様にも見ていただきながら、練習や話し合いの成果を発揮して立派な作品に仕上げた。子どもたちの感想シートには、協力してやり遂げた達成感や満足感、学生さんへの感謝の気持ちなどがたくさん書かれていた。



6年生の取組「運動会の団旗を製作しよう」

昨年度の書道パフォーマンスを受け、本年度の6年生も「半紙ではない大きいものに字を書きたい」「大きさの違う筆で書いてみたい」という思いがあり、運動会で使用する各組の団旗を製作することにした。練習の時間は、文字のバランスや配置などに気を付けて、協力して取り組むことができた。本番では、全校児童から視線が集まる緊張の中、堂々と書き表す姿が見られた。他学年の子どもたちからは、「文字が大きくてカッコいい」「6年生になったらやってみたい」といった感想が寄せられた。

運動会当日に4色の団旗が掲げられる様子は壮観だった。子どもたちは、自分たちが書いた文字には力が込められていて、各組の団結力を高め運動会を盛り上げたことを実感した。また、地域の方々からも称賛の言葉をいただくことができた。



IV 成果と課題

1 研究内容Ⅰについて

主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善及び指導・支援の在り方について

興味や関心をもてる教材や提示方法の工夫を行ったことで、児童が主体的に学習に取り組めるようになった。児童はいろいろな練習方法を楽しんで試行錯誤し、友達と共有しながら練習した。また、児童自らめあてをつかみ学習の見通しをもつために授業の進め方を視覚化し、進んで取り組めるようにした。めあてに沿った効果的な振り返り（自己評価・相互評価）を工夫し、ICTを効果的に取り入れながら学級で共有化することで、対話的でより深い学びにつながり、学習の成果を実感できた。本時のめあてやそれに応じた教材を準備して焦点化することで、児童が「分かる」「できる」楽しい授業の構成ができた。書写においても、ユニバーサルデザインの考え方は有効であった。

課題としては、自分のめあてに関することが挙げられる。本時のめあてからどのように自分のめあてを立てるか、自分のめあてを意識しながら、そのめあてに沿った練習を進められるか。また、めあての共有化をどこまでどのような方法で広げるか。今後も授業改善に取り組んでいきたい。

2 研究内容Ⅱについて

「書くこと」を楽しみ、他者とよりよくつながることで、自信を育むことのできる指導や支援の手立てについて

「書くこと」を楽しむには、基礎・基本の技術が必要であると考え、「書くこと」に対する基本的な知識や技能の育成を行ってきた。正しい姿勢や正しい筆記具の持ち方、道具の準備、後片付け、始筆や運筆などの基礎・基本を楽しみながら繰り返し確かめられるよう方法を工夫した。また、めあてに沿った練習方法や練習用紙をどう選ぶかを迷っていた児童が、ペア学習での対話を通して、安心して活動に取り組めるようになってきた。自分のめあてが達成できたことを友達に認められたことで自信につながり、次時への意欲も高まった。

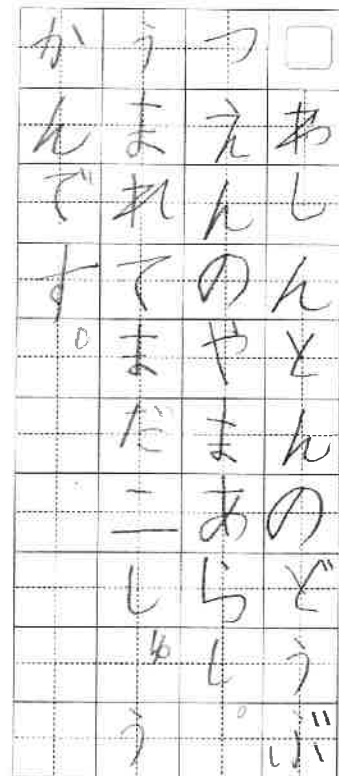
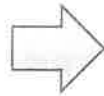
また、6年生の書道パフォーマンスや団旗製作を見た下学年の児童からは「かっこいい」「自分たちもしてみたい」という憧れが生まれ、6年生にとっては大きな自信となった。本校は人権教育を中核として教育活動を進めている。ありがとうカードやPBSカード（ポジティブ行動支援）でお互いのよいところやがんばりを認め合う活動を日常化し、お昼の放送で伝えたり校内掲示したりすることで自己肯定感を高めてきた。

しかし、アンケート結果では、1年目では上昇した「書くことが好きか」「書写が好きか」の項目が、2年目には微減した。高止まりともいえるが、これは、文字を整えて書けていないのではなく、文字を見る目や評価する観点がはっきりしてきたことが要因になっていると考えられる。また、もともと書写に苦手意識をもっている児童ががんばった過程を自らが認められていないとも考えられる。書いた作品だけでなく、問題解決した過程を重視できる評価のシステムの研究が必要だと考える。

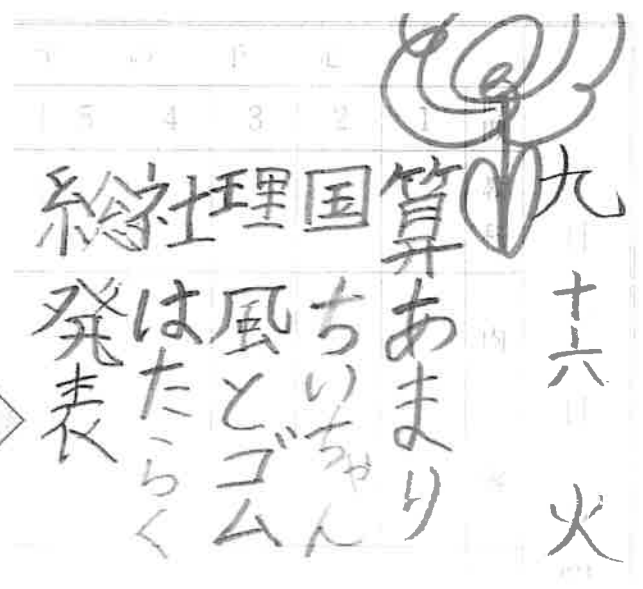
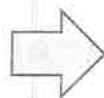
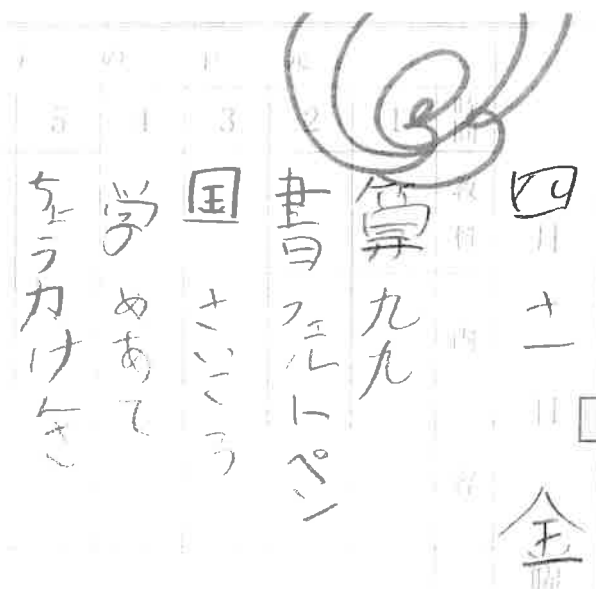
3 児童の文字の変化

書写の時間には、自分のめあてをもって主体的・自律的に練習し、まとめ書きでは筆圧や字形を整えて書くことができるようになってきた。阿南市小学校書写部門が主催する「阿南習字」で、昇級する児童の割合が増えている。また、各教科や学校生活、学校行事の中で相手意識や目的意識をもって相手に読みやすい文字を意識し丁寧に書こうとする態度が身に付いてきた。変容が見られた児童の文字を紹介する。

1年生



3年生



④ 比が等しいかどうかを調べよう。
 $\frac{4}{2} = \frac{6}{3}$ $\frac{2}{3}$ 倍

⑤ $4 \div 6 = \frac{4}{6}$
 $= \frac{2}{3}$ $\frac{2}{3}$ 倍

⑥ $c : b$ で表される比で、 c が b の何倍になっているかを表す数を「 $c : b$ の比の値」という。
 $c : b$ の比の値は、 $c \div b$ で求められます。

⑦ A と B の対称の軸と垂直に交わる点から、対称の軸までの長さ、等しくする。

4 本研究・実践を通して

『言葉を大切に、自律的に学ぶ子どもの育成』に向けて「楽しみ つながり 自信を育む書写学習」を副主題に設定し研究実践に取り組んできた。

本校は、人権教育の推進を学校教育の中核として教育活動を進めている。書写教育でも自己肯定感を高めるべく研究を進めてきた。また、いろいろな場面でいろいろな道具を用いて書く経験や、各教科や学校行事の中で目的意識や相手意識をもって書く活動を意図的・計画的に取り入れ、継続してきた。結果、ほとんどの児童が「分かる」「できる」という思いをもって楽しく学習している。自分の書いた文字で相手に思いや考えがよりよく伝わったり互いに認め合ったりすることで自信が育まれ、楽しんで人とつながろうという意欲につながった。児童が進んで友達に手紙を書いたり、放送で手紙（ありがとうカード）が読まれたりすることでみんなが笑顔になる日常が見られた。

一方、書写教育における授業のユニバーサルデザインを考える場合の「個別の配慮」、ポジティブ行動支援（PBS）では、「特別な支援を必要とする個人」への「個別の目標に関する特化した配慮」の研究も進めていかなければならないと感じている。ほとんどの児童にとって「分かる」「できる」楽しい授業になるよう指導の工夫を行い、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の観点から学習活動の充実を図ることができた。しかし、それでもより丁寧な支援を必要とする児童がいる。自分に合った教材を選び主体的に活動をしていても、「書写の時間が好きではない」と考える児童、書写に苦手意識を強くもっている児童である。今後、その児童にとっても「分かる」「できる」楽しい書写の授業でありうるための個別の手立てや配慮を考えていく必要を感じている。

これからの書写教育でも他者とよりよい関係を築き、本校が大切にしてきた人権教育の考え方を育てていきたい。そして、全ての教育活動で互いを認め合える力を育て、生活を豊かにしていきたい。また、苦手と感じていても、人やもの、こととのつながりを大切にする中で、児童一人一人が自信を育むことができるよう、みんなで楽しむ書写教育に今後も取り組んでいきたい。

おわりに

私たちは、『文字を大切にし、自律的に学ぶ子供の育成』という徳島県小学校教育研究会国語（書写）部会の研究主題のもと、「楽しみ つながり 自信を育む書写学習」を副主題として、令和6年度と令和7年度の2年間、研究・実践を進めてまいりました。どのようにすれば子どもたちが書くことを楽しみ、確かな書写力を身に付けながら、人やもの、こととのつながりの中で自己肯定感を高められるかが研究の重点でした。そして、これまで本校が教育活動の中核として取り組んできた人権教育により、文字を大切にし、認め合う中で自他を大切に思える子どもを育てたいと願いました。

この研究を振り返ると、書くことを通じて出会った人と笑顔で作品づくりをしたり、興味をもった筆で集中して文字を書き上げたり、体験したことを振り返り心を込めて文字に残したりするなどの子どもたちの姿がたくさん出てきます。加えて、チームとして取り組んだ私たち職員が研修や研究授業ごとに積み重ねを大切にしてきた足跡も思い出されます。この子どもたちの成長や我々の研究の歩みをこの一冊にまとめましたので、今後の書写教育発展の一助にいただければ幸いです。

最後になりましたが、本校の研究を進めるにあたり、多くの先生方からご指導やご助言を、そして惜しまぬご協力をいただきました。心より厚く感謝申し上げます。

令和6・7年度 宝田小学校 職員一同

研究同人

令和6年度

阪本 一雄	野田 知栄子	青木 美恵	黒田 京子
福本 淳子	島田 誉子	湯浅 美佐子	松田 由貴
戎田 利彦	齋藤 沙也佳	和田 真志	岡本 豪
折野 美穂	小神子 涼美	加治本 由美子	古森 雅也
上杉 礼央	原市 裕	露口 恵理子	中村 一彦
岡部 あかね	勘田 奈美		

令和7年度

阪本 一雄	野田 知栄子	黒田 京子	町田 真紀
福本 淳子	島田 誉子	湯浅 美佐子	松田 由貴
戎田 利彦	西沢 愛	岡本 豪	青木 美恵
澤田 恭子	折野 美穂	小神子 涼美	加治本 由美子
天野 真吾	上杉 礼央	原市 裕	露口 恵理子
奥田 美穂	岡部 あかね	上 部 佐和子	

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. At the top center, there is a small rectangular box containing the word "MEMO". The paper has a slightly aged or off-white appearance.